

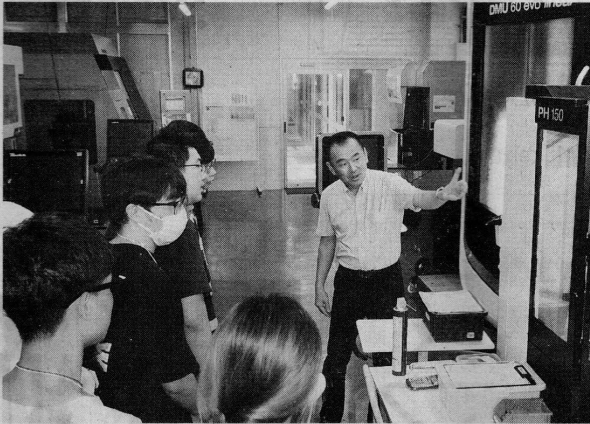
理系外国人を丹後に

機械金属業への就職探る

丹後の機械金属業が抱えるエンジニア不足の問題解決につなげようと、理系外国人留學生の丹後での就職の可能性を探るプロジェクトがスタートした。京都市の2社でつくる「丹後多彩化ワークス」(松本絵里子代表)が手掛けるもので、留學生を丹後に招くオープンファクトリーなどで調査を行い、来年1月に結果を発表する。

【樋口大亮】

9月10日、京丹後市大宮町善主寺のヒロセ工業(株)で1回目のオープンファクトリーがあ



留學生に工場や機械の説明をする廣瀬社長(右端) 〓京丹後市大宮町善主寺

つた。訪れた20〜30代の留學生は、中国やインドなど4カ国の12人。いずれも京都市内の学校で学ぶ。精密な金属加工を強みとする同社の工場や製品を目の当たりにし、「素晴らしい」と声を上げた。

留學生が高い関心を示す中、同社の廣瀬正貴社長(53)は悩みを明かした。「もっと機械を稼働させたいが、動かすためのプログラムを作る人材が足りない」。丹後は機械金属業が集積する地域だが、人口減少が著しく人手不足は深刻化している。エンジニアの確保は、他の機械金属業にも共通した課題だ。

丹後多彩化ワークスは、府内の他地域と比べて丹後に少ない外国人材に着目したプロジェクト。府の「共創型も

のづくり等支援事業」による補助金の採択を受けた。丹後でのプログラミング事業を通してエンジニア不足の問題に直面した松風社(京都市)が、(株)ニップロ(同)とともに取り組む。

プロジェクトでは、日本での就職を希望する理系外国人留學生と丹後の機械金属業、双方の意向や状況を調査

する。留學生に向けては12月に2回目のオープンファクトリーを開き、機械金属業には採用担当者へのアンケートやヒアリングを進める。来年1月に京丹後市内で報告会を予定しており、調査や検証の結果を発表する。

ホームページ

